

心を見つめて読もう（5年）

五月になれば

～「時の流れ創作日記」を作って心情、変化、構成を読もう～

指導目標

場面の描写と関連づけて、登場人物の心情の移り変わりを読む。

場面の様子がわかる叙述とつなげて、登場人物の心情の移り変わりを読む。

「時の流れ創作日記」を作る活動を通して、物語の構成や叙述に即した心情の変化を読む。

教材について

5年生の子供は、自分の力ではどうすることもできない問題にぶつかって心を悩ませることが多くなる時期である。この時期に本教材『五月になれば』に出会う意味はとても大きい。優れた描写に支えられながら、登場人物の心情の移り変わりをきめ細かく読んでいきたい。

本単元でつけたい力は次の3つとする。

情景描写から人物の心情を読み取る力。

人物の心情の移り変わりを的確にとらえる力。

ストーリーの変化に合わせ物語文の構成をとらえる力。

以上の3つの力が高学年の今後の物語文の学習に生かされるように意識していきたい。また読むことの学習にとどまらず、書くことの学習においても意識させたい。それによって生きてはたらく力となる。したがって本単元も上記3つの読みの力をつける意味とそれらを作文表現にも生かす意味を兼ねて、「時の流れ創作日記」を作るという単元の終末の活動を設定する。

本単元の選択式てびきの一つに提示されている「創作日記」をアレンジしたものが「時の流れ創作日記」である。これは『起承転結』の4段構成と情景描写の読み取り、そして中心人物の心情曲線を組み合わせたものである。この言語活動の流れとポイントは次のことである。

- ・起承転結の各段ごとに中心人物の創作日記を書く。
- ・創作日記には根拠となる文とともにそこから読み取れる人物の心情を書くこととする。その際、「人物の心情がかくれている文を探そう」という投げかけをし、情景描写の文を探すという負荷をかける。
 - * ストレートに心情が表現されている文よりも、隠れている文にこそ重みのある心情があるという意識づけをさせたい。
- ・創作日記の用紙はさまざまなものを準備しておく。原稿罫、吹き出し、円形、方形、菱形などその時の心情に合わせて選択する楽しさを味わわせる。
 - * このバリエーションの豊富さが今後のノート技能を高めることになる。自分なりのノート作りをしていく第一段階として考える。
- ・創作日記は起承転結各段1枚とはせず、2枚以上でもよしとする。紙の枚数によって最も物語の展開が山場となる転の部分が視覚的にとらえられる。また転部を境目とした心情の変化がよりとらえやすくなる。
- ・起承転結の各段で書かれたの創作日記を1枚の大きめの紙（A3の紙・画用紙・模造紙など）に心情曲線風に貼り付けていく。中心人物の心情を高低で表すように考えながら各創作日記を貼り付け、線で結ぶ。同時に起承転結の区別も線引きしておく。これによって心情の変化と物語の構成（起承転結の展開）が視覚でとらえられる。
 - * この貼り付け方（アレンジの力、デザインの力）は読みの学習であると同時にノート作りの重要な要素である。これからのノートでもこのように自分らしくまとめていくのだよ、とおさえればよい。

学習指導計画（7時間）

展開・時	学習活動	留意点
第1～2時	<p>単元のめあてと学習内容をつかみ、『五月になれば』を全文通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「時の流れ創作日記」を知る。 ・主人公「大樹」について感想を出し合う。 	<p>単元全体の活動となる「時の流れ創作日記」のイメージをつかませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の心情に寄り添うことを意識させる。 ・あくまでも文章からイメージすることを意識づける。
	<p>物語の時の流れを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「時を表す言葉」を見つけ、物語の流れをノートに整理する。(てびきの活用) ・起承転結の4部構成について覚える。 	<p>物語の骨になるできごとを整理しながら、4コマまんがをイメージしながら起承転結の構成に気づかせる。</p> <p>今後の物語学習にも生かせるようにさせる。</p>
第3～6時 第3時（本時）	<p>起承転結それぞれの場面での主人公「大樹」の創作日記を書いて読み深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起...一・二の場面の「時を表す言葉」 「新学期になってすぐ、転校だんて。」 ・承...三の場面の「時を表す言葉」 「次の日の夕方、大樹は「あの場所」まで自転車をとばした。 ・転...四の場面の「時を表す言葉」 「しいんとした時間の後、父が大きく息をした。」 ・結...五の場面の「時を表す言葉」 「五月になれば・六月一日、朝五時。」 	<p>起承転結の各部に1時間ずつをあて、叙述に即し、大樹の心情に寄り添った日記を創作させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作日記がうまくかけない子には教科書の心情のわかる部分にサイドラインと書きこみを書かせ、それを日記とさせるよう支援する。 ・創作日記用紙はさまざまなものを用意しておく。 EX.二百字原稿用紙、吹き出し、無地の円型用紙・菱形用紙などバリエーションを多く。 その後のノート作りに各自が生かしているようなものを用意しておくといよい。 ・主人公の心情がつかめるあるいは隠れている本文（根拠となる文）を常に日記の最後に書かせる。(長い場合はページ数と行数を書かせる)
第7時	<p>創作日記のパーツを起承転結と心情曲線に合わせて「時の流れ創作日記」として大きめの紙に貼り付け完成する。</p> <p>完成させた「時の流れ創作日記」を紹介し合い、読みの交流を行う。</p>	<p>大きめの紙に物語全体の構造が表れるように、心情曲線を書きこみながら「時の流れ創作日記」を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの創作日記のパーツを心情曲線の高低を考えながら貼り付けていく。 ・主題につながる中心点を見つけ書きこませる。 ・大きめの紙はA3版の紙、画用紙、模造紙など。 <p>各グループごとにワークショップの発表会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人3分以内で発表させる。 ・発表の要点は次の二つとする。 中心人物の心の移り変わり。 中心点となる部分の創作日記。 いちばん気に入った情景描写の文。

* 本単元はあくまでも読むことが中心である。しかし他領域と関連させることでより深まるように配慮した。書くこと、話すこと聞くことはモジュール的な考え方で時数計算をした。

本時の展開（ 3 / 7 ）

目 標

- ・「起」の場面（一・二の場面）の音読と根拠をもった創作日記の活動をとおして，大樹の言動と場面の描写から心情を読み取ることができる。

評価規準

- ア 登場人物の心情や情景描写を想像し，味わいながら読んでいる。（読むこと）
- イ 場面の叙述に着目しながら，人物の心情を想像して書いている。（書くこと）

展開例

学習活動	学習内容・留意点	評価・支援
1 めあてをつかむ	具体的な学習の課題をつかむ。	
「起」の場面での大樹の心の文を探し，創作日記（パーツ）を書こう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の終末の活動を常に意識させる。 ・「心の文」という言葉に情景描写の文を含める。 	
2 起の場面（一・二の場面）を音読する。	P18L1～P20L5 までを音読する。 <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し音読させる。 ・音読のポイント 人物の心の文を探す。 声で心を表す工夫をする。	ア読む： 登場人物の心情を想像しながら読んでいる。 速く読む，ゆっくり読む，人物の心を表すように読むなどさまざまなパターンで読ませる。 次の学習活動につなげるため，サイドラインと簡単な音読記号を書かせる。
3 創作日記を書くための材料となる文を集める。	心の文を探し出す。 <心が直接表れている文> <ul style="list-style-type: none"> ・新学期なってすぐ，転校だなんて。 ・「ひどいよ、そんなの。」 ・～思わず立ち上がった。 ・～考えたこともなかった。 ・～思いもしなかった。 ・～はずがない。 ・そんなのいやだ。 <心がかくされている文> <ul style="list-style-type: none"> ・それにいちばん大切なこと。 ・大樹の頭の中に，川の音が流れ始めた。 ・サリ，サリ，サリという水の音が，体の中から聞こえてくる。 	ア読む： 情景描写の文から心情を読み取っている。 前の学習活動（音読）とつなげて，サイドラインを引いたものを発表させる。 情景描写の文を「心がかくされている文」ととらえ，この文の探し出しと想像に重点を置く。 心が直接表れている文と比較させ，より強く重く読者に伝わってくる効果に気づかせる。

	<p><父や母の心の文></p> <ul style="list-style-type: none"> ・父が、大樹のかたを静かにおさえた。 ・父と母は、こんなときのために取っておいた特別の声を出す。 	<p>父や母の心の文にも大樹の心が映し出されていることもおさえる。</p>
<p>4 創作日記（パーツ）を書く。</p>	<p>根拠となる文とそこから想像する大樹の心情を書く。</p> <p><条件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・心情に合わせて紙を選ぶ。 ・何枚でもよしとする。 ・心が隠されている文を根拠とした創作日記は必ず書く。 	<p>イ書く：場面の叙述に着目しながら、人物の心情を想像して書いている。</p> <p>紙は二百字原稿用紙、吹き出し、無地または縦書き罫の円型・方形・菱形用紙などバリエーションを多く用意し、心情に合わせて紙を選択させる。</p> <p>情景描写の文を根拠にした創作日記は全員共通とし、それ以外は各自の自由とする。相互交流の際の評価に活用する。</p>
<p>5 創作日記（パーツ）の並びを確かめ、グループで交流をする。</p>	<p>書いた創作日記を叙述の順に並べる。</p> <p>並べられた互いの創作日記をグループの中で読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員共通の「心がかくされている文」を中心に相互評価・自己評価させる。 ・創作日記（パーツ）は封筒に入れて保管させる。 	<p>単元の終末に行う「時の流れ創作日記」に生かせるようにする。</p> <p>* 「時の流れ創作日記」…創作日記に起承転結の構成と心情曲線を組み合わせたもの。</p> <p>ア読む：情景描写の文を読み味わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の時間以降の創作日記に生かせるように、友達の読み取りの深さや日記の書き方でよいところを見つけさせる。

この単元のアレンジ例

単元の最後に創作日記（パーツ）を貼り付けて「時の流れ創作日記」として完成させるのではなく、起承転結の学習時間ごとに貼り付け、学習が進むにしたがって完成に近づくという展開。貼り付ける台紙は大きめの紙ではなく、ノートに直接貼り付ける方法。その場合、当然複数ページにまたがる。学習の流れがノートに残るという点がこの方法の長所である。逆に単元の最後にワークショップで発表する時には視覚への訴えが弱くなるのが短所である。

具体的な評価規準（B基準）

関心・意欲・態度	話す聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
人物の気持ちを創造しながら読もうとしている。	叙述をもとに感想や意見を話している。	登場人物の気持ちを想像しながら文章を書いている。	叙述をもとに、登場人物の気持ちや情景を想像しながら読んでいる。	助詞に気をつけて言葉や文の意味を理解している。